

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防(通常砂防)		路河川名等		小胡桃沢(こくるみさわ)				
事業毎の通番		4		市町村名		松本市				
事業目的		小胡桃沢は、土石流危険渓流であり、上流には不安定な土砂が堆積している。保全人家は64戸(直接被害23戸 孤立人家41戸)、耕地15haがある。土石流発生時には災害想定区域が避難経路となるため、避難困難が予想される。このため、保全対象の対策工を検討し、土砂災害を防止したい。								
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		砂防法				
関連する事業、計画等										
保全対象・範囲 受益対象・範囲		保全対象・民家直接被害23戸 孤立民家41戸 避難場所 耕地15ha 受益対象								
着手年度		H27		事業期間		6年間				
完成年度(見込み)		H32		費用対効果		7.1				
全体事業内容(主な工種)		砂防堰堤工 1基		事業費(千円)		財源内訳(千円)				
年度事業内容(主な工種)		地質調査・地形測量・堰堤工詳細設計 1式		国庫		その他 県債 一般財源				
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 土石流災害から、人家23戸、市道、避難場所、耕地等を保全 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域の解消 間接的効果(定量的・定性的) 市道の被災に伴う集落の孤立化を防止								
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】 直接被害23戸 孤立41戸 【保全公共施設】 市道、公民館施設3箇所(矢久・小胡桃農作業生活改善施設(避難場所)、矢久公民館) 【保全災害時要援護者施設】 なし 【避難場所】 矢久・小胡桃農作業生活改善施設(地域防災計画に位置付けられた一時避難場所)					評価	A		
	重要性	【災害履歴】 なし 【交通影響】 市道(交通遮断による孤立集落あり) 【位置付け】 地域防災計画に位置づけあり(土石流危険渓流、避難場所)					評価	B		
	効率性	【費用対効果】 7.1 【早期効果発現】 事業期間:6年間 【工法等比較検討】 堰堤配置、形式等について比較検討 【総合調整】 治山事業との調整中					評価	A		
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱かつ地すべり地形 【流域植生】 倒木多数 【平均渓床勾配・土砂整備率】 勾配:12.7°・土砂整備率:28.8% 【危険地区】 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり(H24.3指定)					評価	A		
	計画熟度	【情報共有】 事業計画について説明会実施 【地域要望】 市町村要望あり 【地域合意】 事業について協力的 【住民参加】 警戒避難体制、防災訓練実施					評価	B		
	部意見	当該渓流の保全対象には、避難場所、避難経路となる市道が含まれ、市道が被災することにより集落が孤立化するおそれもあることから、速やかな土砂災害対策が必要である。		行政改革課意見		保全対象に人家、市道、農地があることから、必要性、緊急性が認められる。		評価結果	総合評価	O

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)		流域概要図	
位置図			
事業概要説明図表			
【整備の必要性がわかる状況写真等】			
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	小胡桃沢は土石流危険渓流であり、上流域には不安定な土砂が堆積しており、豪雨などには土石流の発生が懸念されている。土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等が指定されており、人家や避難場所、市道が被災することによる孤立集落に対する土砂災害対策を行う必要がある。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成25年11月に砂防指定地より上流で小崩落があり、一部、沢をせき止める。住民からの通報で松本市が応急対応したが、その後、県が地区集会以対策工について調査することについて周知を行う。	
	③事業説明等の経緯	全体計画のための調査について説明、了解済み。事業については協力的。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後周辺環境への影響を抑えることも観点に設計、工法等の検討を行う予定	
	⑥地域活性化への影響と配慮		
	⑦その他	砂防指定地申請予定	
		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 19' 46" 東経:E 138° 02' 10"